

花きの県別生産出荷概況(8月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		8月のピーク(%)			主産地
				期間	ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
輪菊	青森	施設	岩の白扇 神馬 精の一世 他	6~12月 (8、9月)	13.2 100	850 99%	300 100%	50	30	20	五所川原 三戸町
	茨城	露地	精の光彩 精の一世 他	周年	1 100	280	200	30	50	20	神栖市 他
	秋田	施設・露地	精の曲 精菱 深志の匠 他	5月~11月 (7月~8月)	30.72 103%	8,090 119%	3,721 130%	80	10	10	秋田みなみ 秋田おぼこ 秋田ふるさと
	福島	露地 ハウス	スーパーイロー サマーイロー 精菱 千穂 精の曲 他	7月~10月 (8月~9月)	12.4 92%	630 95%	450 95%	50	30	20	会津みどり
	山梨	促成 半促成 露地	スーパーイロー など	6月~12月 (7月~8月)	3 100%	40 100%	30 86%	39	44	17	笛吹市 (八代町)
	静岡	施設	白扇、一世、 SP秋風、曲、 枕、光彩	周年		2,200 100%	1,400 100%	50	30	20	JAとびあ浜松
	愛知	周年	岩の白扇 精の一世 精の枕 夏のあゆみ 夏のきらめき	4-3月		23,000 100%	13,000 100%	44	28	28	愛知みなみ ひまわり 西三河 あいち中央 あいち知多 愛知西
	福岡	施設	優花 精の一世 夏日和	周年	13.6 102%	5,500 102%	1,100 102%	48	24	28	八女電照菊
	大分	施設	優花 精の枕 他	周年	24 100%	1,200 85%	250 85%	50	30	20	佐伯 杵築
	宮崎	施設	優花 石の白扇 精の一世 他	周年	28.6 84%	956 117%	- -	60	20	20	国富 都城 こぼやし えびの市 尾鈴
熊本	露地 施設	精の曲 秀の金扇 優花 他	周年 12月	26 99%	750 100%	360 100%	70	20	10	鹿本 球磨	

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		8月のピーク(%)			主産地
				期間		ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本	(前年比)			
小菊	茨城	露地	はじめ、精こまき、精しまなみ、紅千代、小紫、玉姫、はるか 他	5月～12月 (7月～8月)	143 100	5000	3200	70	20	10	笠間市、銚田市 他
	秋田	施設・露地	精はぎの舞人・小雨このみ 紅天下他	7月～12月 (8月～9月)	34 (103%)	7038 (119%)	3096 (113%)	80	10	10	秋田しんせい 秋田おぼこ 秋田ふるさと こまち、うご
	群馬	施設・露地	こかげ 小雨 翁丸 他	5月～12月 (7月～9月)	21 (95%)	850 (95%)	750 (95%)	60	20	20	渋川市 甘楽町
	沖縄	露地 施設	精やさか	11月～5月	0.5 75%	217 76%	65 80%	70	30	0	読谷村 うるま市
バラ	茨城	施設	ローテローゼ、ティケネ、パレオ、パピオン、ダーリン、オーシャンソング 他	周年	11 98	350	250	40	30	30	つくば市 他
	山梨	周年	ローテローゼ、サムライ等	周年 ()	2.5 66%	115 36%	105 35%	34	33	33	笛吹市(御坂町)
	静岡	施設	ローラ キムシー バナナ	周年 10-12月 3-5月		550 98%	400 100%	30	30	40	JALみず JA大井川 JA掛川市 JA遠州夢咲
	愛知	周年	サムライ08 レッドスター アヴァンシェ シンディ フレアー他	4-3月		2500 98%	1400 98%	35	30	35	愛知みなみ ひまわり 豊橋 西三河
	大分	周年	Mシリーズ Jシリーズ その他	周年	8 100%	500 90%	140 90%	25	35	40	玖珠 山香 九重町飯田

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
輪菊	青森	神馬、白扇、一世の出荷。一世、白扇の出庫が多く、白扇はダニの被害が見られる。 盆明け露地キクは10日くらい前進傾向となっている。生育のそろいは良く、品質は前年より良い見込み。	現状 白菊は6月より周年産地中心に潤沢な入荷が続いており、新盆需要があるも、軟調な相場となった。色菊については、雪害の影響から長野・群馬の入荷が減少。周年産地中心の入荷。新盆需要で下位等階級中心に引き合いはあったが、下旬に関しては落ち着いた取引となった。
	茨城	・8/1～8頃がピーク ・品質は概ね良好の見込み ・品種の切り替えおよび天候の影響で出荷がやや早まる見込み。	見通し 大田花き 白菊は周年産地中心に順調な生育。8月盆向けもやや前進傾向であるが、例年並みの出荷が見込まれる。色菊についても高冷地中心に前進傾向。周年産地は作付も減少しており、昨年よりも若干少なめの入荷が見込まれる。
	秋田	秋田みなみ: 1部の圃場でバラつきはあるものの、好天により生育は前進もなく順調。 秋田おぼこ: 草丈もとれ、病害虫もなく順調に生育しているが、5日前後進んでいる状況。 秋田ふるさと: 品種によって進んでいるもの、遅れているものがあるが、7月下旬から8/10までまとまった数量の出荷となる。	FAJ 8月に向けて東北・愛知中心にまとまった入荷が見込まれる。
	福島	・赤菊(夏休み・紅帯など)は8月盆に合わせての出荷が期待される。 ・黄菊(精菱、精の曲、スーパーイエローなど)はエスレル処理しても前進している状況。 ・夜温も低く、日中適度な温度で作物に適した気候で推移しており、白サビやハダニの発生は少ない。	東日本板橋花き 旧盆需要中心、2L70～80 世田谷花き 物日需要あり、入荷量多く、単価は昨年並みくらい。 第一花き
	山梨	生育は概ね順調である。	
	静岡	7月盆が終了し出荷は減少しており、1000ケース弱の出荷量となっている。生育は順調で8月4、6日のピークに合わせての出荷計画となっている。	
	愛知	・旧盆明けの生育状況は、現時点では数日程度前進傾向となっている。今後の天候次第であるが、7月末から出荷量が増加傾向となると思われ、旧盆向けの出荷ピークは8月4日(月)販売を見込んでいる。 ・需給バランスを考慮し、下位階級の発生率を高めるために密植するなどの対策を行っており、下位階級の発生率は昨年を上回ると思われるが、7月末から8月頭には上位階級の出荷がまとまることが予想される。 ・8月全体の出荷量としては、前年と同程度となる見込み。	
	福岡	現在の日量(2000ケース) 昨年度より多い出荷。 昨年より気温が低く、生育は順調で前進傾向でやや多い出荷となっている。 白系は優花がメインであるが、中旬以降精の一世の出荷が加わる。 旧盆においては、現在前進傾向がみられ、梅雨明け後の天候も考慮していく必要がある。	
	大分	6月から7月にかけて前進出荷となっており、8月についてはいまのところやや前進気味。生育上の大きな問題はないが、今後の高温に伴う葉枯れが懸念される。	
	宮崎	天候不良により気温が低い状況が続いたことから前進傾向であったが、梅雨明け後、気温上昇してきており、今後ゆっくりとした生育となるため盆需要期に合わせた出荷となる見込み。一部サビの発生あり。	
熊本	生育順調。前月から引き続き、天候の影響から生育が若干前進の産地も見られる。上旬がピーク(8月6、9日出荷分)の見込み。昨年並みの出荷量を見込む。サビ病が出始めているので、防除を徹底する。		

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小菊	茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・季咲きでは1週間程度前進する見込み。ピークは第1週。 ・電照栽培では、適期出荷が見込まれる。 ・一部の産地で強風による曲がりや若干みられる。 ・一部の産地で白サビ病、アザミウマ・ハダニが散見。 	<p>現状</p> <p>産地によって前進出荷となり、需要期に数量がまとまらず、新盆需要にむけ相場は高騰。中下旬に関しては、各地数量が徐々に増加する。大きな需要なく、通常販売分中心の取引となる為価格帯はやや落ち着く。</p>
	秋田	<ul style="list-style-type: none"> 秋田みなみ：前進傾向にあるが、品質は病害虫もなく順調。 秋田しんせい：生育は順調で、前進はしていない。7月の降雨でサビが出てきたが、徹底した防除に努めている。 秋田ふるさと：生育は順調で前進傾向にある。特に赤の1部品種が早く、次に白となる。黄色は7月出荷少ない。 	<p>見通し</p> <p>大田花き FAJ 東日本板橋花き</p> <p>上旬から中旬にかけては8月盆需要に向けた取引中心となる。下旬に関しては需要も落ち着き、通常取引中心の展開となる。</p> <p>8月に向けて東北入荷増量。まとまった入荷が見込まれる。</p>
	群馬	<ul style="list-style-type: none"> 開花はやや前進傾向だが、目立った病害虫の発生もなく、生育は順調。 これまでの出荷量は降雪の影響もあり少なかったが、8月は概ね平年並みを見込む。 	<p>世田谷花き</p> <p>旧盆需要中心、2L40-50</p> <p>山形などの産地も増えるため、単価は入荷量次第。</p>
	沖縄	<ul style="list-style-type: none"> 一部で黄色系「精さやか」を中心とした作付を行っている。 一部で台風の葉すれ、茎曲りの被害が見受けられる。 	<p>第一花き</p>
バラ	茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の産地でダニやスリップスが発生 	<p>現状</p> <p>国産品は相場低迷のため、無理に出荷する事無く、少なめで推移している。しかし、品薄でも相場が高騰する事がなく、販売に苦戦。</p> <p>輸入品も中旬以降にエクアドル産、ケニア産と入荷開始されるが、単価が出づらいつ展開となっている。</p>
	山梨	<ul style="list-style-type: none"> 一部うどんこ病の発生がみられるが、生育は概ね順調。出荷量は雪害の影響により少ない。 	<p>見通し</p> <p>大田花き FAJ</p> <p>国産品は下位等級などの出荷調整に入り、入荷は少なめの見込み。取引の中心は高冷地、大輪系となる見込み。為替の影響大きく、昨年並みからやや減少。</p> <p>引き続き東北中心の入荷。目立った需要もなく、入荷少ない予想。相場は弱もちあいの見込み。</p>
	静岡	<ul style="list-style-type: none"> 改植については終盤となっている。出荷量はピークを過ぎ昨年と横ばいの状況。ポトやうどんなどの病気が散見されており、切前とともに検査の強化を行っている。 	<p>東日本板橋花き</p> <p>暖地は夏季剪定に入り、東北物中心の入荷で全体量は徐々に減少。中下旬頃より輸入の大輪種の入荷が始まる見込み。</p>
	愛知	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量の少ない時期であり、月を通してそれほど大きな出荷の波はないと思われるが、盆前後は出荷を休む産地・生産者もあるため、中旬は出荷量が少なくなる。 ・徐々に下位等階級の発生比率が上昇してきている。 ・多くの生産者がヒートポンプを導入し、夜冷を行うなど品質向上対策を行っている。 	<p>世田谷花き</p> <p>高冷地産中心(上位等級)の引き合い強い。単価・数量は昨年並みの予想。</p> <p>第一花き</p>
	大分	<ul style="list-style-type: none"> 複数の品種にて植え替えが重なっており、7月下旬にかけて少なめの出荷。8月中旬以降に増加に転じる見込み。毎年夏場の品質に苦戦するため、本年は早朝から防除を徹底している。 	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコぎきょう	北海道	好天が続き、やや前進傾向の出荷となっている。	<p>現状 千葉が出荷最盛期となり、また高冷地では長野、山形、福島中心に増加傾向。西南産地が順次終了しており数量的には昨年並み。千葉は上旬がピークとなり、後半は長野、山形主体の入荷状況となる。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 主力産地は長野、岩手、福島となり昨年よりやや増加する見込み。販売面ではお盆需要で上旬は引き合いがあると予想されるが、中旬以降は出荷量の状況により相場展開は変わっていく。</p> <p>FAJ 引き続き高冷地中心の入荷。8/8-11の仕入れがピークとなる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 暖地の出荷が終わり、完全に高冷地のみのお荷比率となる。気温が上昇傾向であるため、数量は潤沢な予想。</p> <p>世田谷花き 山形・福島・北海道・長野などから、各色潤沢に入荷。品質による価格差大きい。</p> <p>第一花き</p>
	青森	11月定植は、5月末の高温により生育早く、ボリューム感が少なく優品率が高い。3月定植は生育順調でボリューム感もあり、7月下旬より出荷予定。6月定植は定植作業が終了しシェード作業中。病害虫は、春先から気温が高かったため、アブラムシ・コナジラミ等が散見される。	
	山形	8月出し作型の生育は、前年並みからやや早い。品質は良好であり、病害虫の発生はほとんどなく経過している。	
	茨城	トルコ全般生育は順調。 あいづ、11月定植越冬物は7月より出荷開始。 抑制は8月下旬より増量予定。	
	茨城	・全体的に生育及び品質は概ね良好である。 ・一部の産地でアザミウマ発生 ・出荷ピークは上中旬の見込み	
	群馬	目立った病害虫の発生もなく生育は順調。	
	千葉	生育は順調で品質も良好。 7月下旬で出荷はほぼ終了し、8月の出荷はわずか。 7月10日に神戸下記精さん組合では出荷査定会を実施し、切り前等について確認した。	
アルストロメリア	北海道	4月に改植し終えた新株の出荷が始まる予定	<p>現状 愛知、北海道、山形、長野中心の入荷となるが、数量は減少傾向。業務需要中心に引き合いがあり、中値での取引となった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 各産地大きく数量は減少し、少量の入荷となる。下旬頃より新植のもののお荷が始まり、徐々に数量は回復してくる見込み。</p> <p>FAJ 引き続き山形、長野より入荷。東需要中心で安定した相場が見込まれる。</p> <p>東日本板橋花き 青森、北海道、中心の入荷。業務中心の動き。</p> <p>世田谷花き 業務中心の引き合い。数量はさらに落ち着く。</p> <p>第一花き</p>
	青森	5月以降積極的に改植に入ったことから、ここまで前年を下回る出荷が続いている。8月についても、同様に少なくなめのお荷となる見込み。数量の回復は9月からとなる見込み。 アオムシ、コナガが一部で見られるほかは、病害虫の発生は少ない。	